

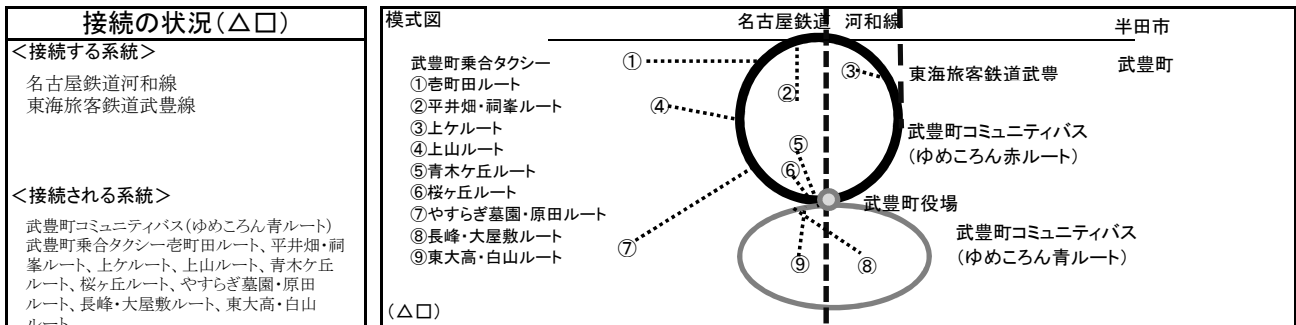
平成29補助年度 補助系統別事業評価票(ゆめころん赤ルート線)

資料5-3

1.補助システムの概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
ゆめころん赤ルート	武豊町	レスクル	武豊町役場～イオン半田店～武豊町役場	11.2 km	1,595回	半田市
ゆめころん赤ルート	武豊町	レスクル	武豊町役場～イオン半田店～武豊町役場	11.0 km	2,354回	半田市
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)



2.H29年度の運行状況

計画どおり運行されたか(△)		評価の基準	(参考数値) 主要指標の推移(△)					
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由	<p>A → 事業計画どおりの運行回数が確保されている場合</p> <p>B → 車両故障等運行事業者の責に帰すべき事由により、運休(一部区間の運休を含む)が生じた場合</p> <p>C → 系統廃止に至る場合</p>	年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
A	補助対象期間の開始日から、運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。		利用者数(人)				33,803	38,162
			平均乗車密度				2.8	3.3
			輸送量				30.2	35.6

目標・効果達成状況			
評価	目標の達成状況(△)	運営主体の所見、理由分析、認識(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)
A	目標	継続的な事業実施により町民の認知度が増加した。また、NPO法人と連携した「ゆめころんのうた」のCD作成や保育園、武豊町コミュニティバス利用促進会の会など協力した利用促進事業の実施により利用者の増加につながったため、目標を達成することができた。	市町村名: 武豊町
	結果		市町村の所見、理由分析、認識(□)
	特記事項		市町村名: 半田市
			市町村の所見、理由分析、認識(□)
			市町村名:

複数市町村を跨ぐ系統としての役割				
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(運営主体)(△)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)	住民の利用状況(□)
市町村を跨ぐ利用者数(△)	419人/月	市町村名: 武豊町	市町村名: 半田市	市町村名:
全利用者に占める率(△)	13%	半田市民を武豊町に呼び込むための利用促進事業を新たに展開するよう検討していきたい。	交通上の問題もなく、安全に運行しており、利用者も多いため、引き続き運行を続けてほしい。	
特記事項	H28.10~H29.9の「イオン半田店」停留所の降車数	おおよそ1割の乗客が本停留所を利用しており、市町を跨ぐ路線設計はバスの利用促進に効果があることがわかる。内訳は、乗車数より降車数の方が多い。半田市の商業施設に乗り入れており、買い物後、大きい荷物のため、タクシー等に乗り換えている利用が想定される。		

(参考数値・情報) その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体(断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等)(△)	沿線市町村(沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載)(□)
NPO法人が作成した「ゆめころんのうた」からの派生で保育園で「ゆめころんのうたのおどり」が作られた。今後、曲と踊りを広めることで、それらを中心としたバスの利用促進だけでなく、地域の活性化につながる事業を検討していきたい。また、停留所別の利用者数の分析を行いながら効果的なルートを再編していきたい。	利用者の状況を見ると、病院やスーパー等の沿線にある停留所の乗降者数が多いことがわかる。特にイオン半田店の利用が多い。今後は、イオン半田店でのバス利用を促すアナウンスの実施を要請したい。

3.H29年度の取り組み状況

		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
踏まえた事業評価を その取組の	直近事業評価結果(△) 評価 改善点とした事項	年3回地域公共交通会議を開催し、関係者及び住民からの意見の聴取に努めた。またコミュニティバスのテーマソング「ゆめころんのうた」とその踊りが完成した。	市町村名：武豊町 年3回地域公共交通会議を開催し、関係者及び住民からの意見の聴取に努めた。またコミュニティバスのテーマソング「ゆめころんのうた」とその踊りが完成した。	市町村名：半田市 武豊町の開催する地域公共交通会議の内容等の報告を受けるなか、本市の新たな公共交通体系との連携についても検討する。	市町村名：
	(関係者の連携等) NPO法人による「ゆめころんのうた」作成への連携 町内保育園への出張訪問 武豊町コミュニティバス利用促進友の会の利用促進事業への協力	NPO法人による「ゆめころんのうた」作成への連携 町内保育園への出張訪問 武豊町コミュニティバス利用促進友の会の利用促進事業への協力	NPO法人による「ゆめころんのうた」作成への連携 町内保育園への出張訪問 武豊町コミュニティバス利用促進友の会の利用促進事業への協力	平成30年10月からのコミュニティバス等の実証運行に向け、半田市地域公共交通会議において、新たな公共交通体系の構築に向けた協議を進めている。	

4.今後の課題

課題と認識している事項			
運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
① 目標の達成状況に関する課題 ・引き続き利用促進事業を実施。 ② 公共交通ネットワークに関する課題 ・利用者の利便性を高めるためルート・停留所等の見直しを検討する。 ③ 公共交通の維持に関する課題 ・町からの財政投入の拡大を招かないように利用者の増加による運賃収入の増加など事業継続することが必要。	市町村名：武豊町 ① 目標の達成状況に関する課題 ・引き続き利用促進事業を実施。 ② 公共交通ネットワークに関する課題 ・利用者の利便性を高めるためルート・停留所等の見直しを検討する。 ③ 公共交通の維持に関する課題 ・町からの財政投入の拡大を招かないように利用者の増加による運賃収入の増加など事業継続することが必要。	市町村名：半田市 イオン半田店周辺は交通量が多いため、引き続き遅延や事故等トラブルがないよう指導を求める。  本市において平成30年10月から実証運行を予定しているバス路線との乗り継ぎについて検討することが必要。	市町村名：

注. 評価にB、Cがある系統、又は、輸送量が15人を下回る系統については、特に念入りに課題を探すこと。

5.今後の取組

課題に対応した取り組み、その他の利便性の向上、利用促進の取り組み				
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)	市町村の取組(□)
H30年度、H31年度 に行う取組	① 目標達成課題の対応 ・利用促進友の会の協力を得ながら、利用促進活動を継続する。 ② ネットワーク課題の対応 ・随時、ルート等の改善を検討する。 ③ 維持課題の対応 ・事業費が拡大しないよう事業者選定に留意する。	市町村名：武豊町 ① 目標達成課題の対応 ・利用促進友の会の協力を得ながら、利用促進活動を継続する。 ② ネットワーク課題の対応 ・随時、ルート等の改善を継続する。 ③ 維持課題の対応 ・事業費が拡大しないよう事業者選定に留意する。	市町村名：半田市 本市において平成30年10月から実証運行を予定しているバス路線との乗り継ぎについて協議検討し、利用促進を図る。	市町村名：
中、長期的な取組	平成32年度に名鉄知多武豊駅東口で大幅な区画整理があるため、それに合わせたルート再編等を検討する必要がある。	平成32年度に名鉄知多武豊駅東口で大幅な区画整理があるため、それに合わせたルート再編等を検討する必要がある。	自治体間での利用促進事業の協力体制を整えていきたい。	

注. 評価にB、Cがある系統(運営主体以外にあっては、目標の達成状況に関する評価がB、C)、又は、輸送量が15人を下回る系統については、特に詳しく記載すること。

注. 予算の都合等から明言ができないときは、「〇〇の制約があるが(〇〇の検討を要するが)〇〇の取り組みを行っていきたくと考えている」等や「〇〇の取り組み(詳細は未定であるが、例えば〇〇のような取り組み)を行っていきたくと考えている」等と記載すること。

6.早期に利用状況を改善するために行う取組(C又は輸送量15人未満の場合)

運営主体(△)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)	沿線市町村(□)
	市町村名：	市町村名：	市町村名：

注. 目標の達成状況に関する評価がC、又は、輸送量が15人を下回る系統については、記載する。

注. 緊急に実施すべきことで、実施できそうなことを記載する。

通信欄 (この欄は、関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)

※適宜、セルの結合を変えて利用してください